別紙様式4（1）

令和5年7月7日
（前回公表日 令和4年7月31日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
八千代リハビリテーション学院	2004/3/30	片山　薫	〒276-0031 千葉県八千代市八千代台北11丁目1番30号 （電話）047-481-7320
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人巨樹の会	1990/3/20	蒲池　真澄	〒811-0213 福岡県福岡市東区和白丘2丁目1番12号 （電話）092-607-0053

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
医療	医療専門課程	理学療法学科（昼間コース）	平成6年文部科学省告示第84号	

学科の目的	人間愛に基づき対象者の共感的理解および受容をし専門的な知識・技術・価値を習得していくことで、包括的医療の一翼を担うリハビリテーションの専門職となる人材を育成することを目的とする。
認定年月日	平成30年2月28日 文部科学省告示　第28号

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3　年	昼間	3120時間	1500時間	720時間	900時間	0時間	0時間
							単位時間

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内数）	専任教員数	兼任教員数	総教員数
280人	302人	1人	13人	14人の内数	44人の内数

学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日	成績評価	■成績表:　有 ■成績評価の基準・方法 ・講義、実習に必要な時間の出席状況と当該科目の評価により行 ・授業科目の評価はA･B･C･Dの4段階とし、C以上を合格とする。
長期休み	■夏　期:8月1日～8月30日 ■冬　期:12月25日～1月10日 ■春　期:3月22日～3月31日	卒業・進級条件	・履修すべき全科目の単位を取得したものについては、学院長が進級及び卒業を認定する。
学修支援等	■クラス担任制:　有 ■個別相談・指導等の対応 正課授業以外にも学習支援を実施。欠席の多い学生は担任より電話連絡、状況確認を行い、保護者との面談も実施。	課外活動	■課外活動の種類 課外活動については、カンボジア研修旅行、地域交流会等（自治会主催の夏祭り、市主催マラソン大会ボランティア参加等） ■サークル活動:　無
就職等の状況	■主な就職先、業界等（令和4年度卒業生） 病院、医療施設、福祉施設等 ■就職指導内容 担任より履歴書の書き方や面接の指導を実施。また、非常勤講師による接遇マナー講座を実施。年3回、就職説明会を学内で開催。 ■卒業者数　83　人 ■就職希望者数　83　人 ■就職者数　83　人 ■就職率　100　% ■卒業者に占める就職者の割合 :　100.0　% ■その他 令和4年度卒業者に関する 令和5年5月1日 時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報） 資格・検定名｜種別｜受験者数｜合格者数 理学療法士 国家資格｜②｜83人｜83人 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等） ■自由記述欄
中途退学の現状	■中途退学者　7　名　■中退率　2.6　% 令和4年4月 1日時点において、在学者273名（令和4年4月1日入学者を含む） 令和5年3月31日時点において、在学者266名（令和5年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 進路変更、心身の不調、成績不振等 ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 担任、専任教員の面談等によるフォロー、学生相談室（ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ）の設置、学修支援、学校行事を通してリフレッシュを図るなど。		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度:　無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付:　給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:　有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 （評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL） 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構　令和5年4月1日～令和10年3月31日認定		
当該学科のホームページURL	http://www.yachiyo-reha.jp/		

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

理学療法士・作業療法士の教育課程では、学外のリハビリテーション実施医療機関等で臨床実習が行われる。企業等との連携が多く求められるのが臨床実習であり、教育課程編成委員会では、企業委員は臨床実習病院の役職員、専門職団体からの委員、有識者委員を選任し、実務に関する知見、専門職人材の育成、専攻分野の動向などをふまえて、臨床実習を含む教育課程に関する意見を参考に検討を行う。なかでも、産学連携協定を結ぶ実習病院との連携のもと、初年次より段階的に教育機会を設けて、知識技術のみならず倫理・態度の育成に力を入れ、早期より医療人としての資質を高めていく教育のために連携することを基本方針とする。また、企業における最新の技術・知識、必要とされる人材像等の意見を反映し授業内容等の工夫を行い、職業実践により社会貢献できる人材育成につながる教育課程の編成を目指す。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

学校法人巨樹の会では各校に教育課程編成委員会を置き、学科編成や地域状況を踏まえて委員会を開催している。学外の委員に加えて、専攻分野各学科の責任者が委員となり、委員会の意見等は学内の運営会議を経て教育課程の編成に反映させる。今後は、コアとなる教育課程の確認はもとより、PDCAサイクルに則り、専攻分野の職業実践につながる教育課程編成の検討、工夫に反映させていく。また、法人各校との情報交換や連携を進める。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
薄　直宏	一般社団法人　千葉県理学療法士会　副会長	令和 4年4月1日～令和 6年3月31日	①
山田　友紘	一般社団法人　巨樹の会　八千代リハビリテーション病院　理学療法士	令和 4年4月1日～令和 6年3月31日	③
稲葉　真己	一般社団法人　巨樹の会　江東リハビリテーション病院　理学療法士	令和 4年4月1日～令和 6年3月31日	③
小竹　貴	株式会社　シダー　関東本部長	令和 4年4月1日～令和 6年3月31日	①
保科　憲幸	一般社団法人　巨樹の会　千葉みなとリハビリテーション病院　理学療法士	令和 4年4月1日～令和 6年3月31日	③
藍場　祐輔	一般社団法人　巨樹の会　松戸リハビリテーション病院　理学療法士	令和 4年4月1日～令和 6年3月31日	③
松尾　真輔	一般社団法人　千葉県作業療法士会　副会長	令和 4年4月1日～令和 6年3月31日	①
鈴木　竜治	一般社団法人　巨樹の会　原宿リハビリテーション病院　作業療法士	令和 4年4月1日～令和 6年3月31日	③
奥川　達也	一般社団法人　巨樹の会　八千代リハビリテーション病院　作業療法士	令和 4年4月1日～令和 6年3月31日	③
片山　薫	八千代リハビリテーション学院　学校長	令和 4年4月1日～令和 6年3月31日	学内委員
豊島　宇茂	八千代リハビリテーション学院　副学校長	令和 4年4月1日～令和 6年3月31日	学内委員
野見山通済	八千代リハビリテーション学院　副学校長代行	令和 4年4月1日～令和 6年3月31日	学内委員
高野　陽子	八千代リハビリテーション学院　事務部長代行	令和 4年4月1日～令和 6年3月31日	学内委員
吉廣　伸隆	八千代リハビリテーション学院　理学療法学科　教務部長代行	令和 4年4月1日～令和 6年3月31日	学内委員
仲村　匡平	八千代リハビリテーション学院　理学療法学科　教務主任	令和 4年4月1日～令和 6年3月31日	学内委員
吉田　修一	八千代リハビリテーション学院　理学療法学科　教務主任	令和 4年4月1日～令和 6年3月31日	学内委員
音琴　慎一	八千代リハビリテーション学院　作業療法学科　教務部長	令和 4年4月1日～令和 6年3月31日	学内委員
金平智恵美	八千代リハビリテーション学院　作業療法学科　教務副主任	令和 4年4月1日～令和 6年3月31日	学内委員

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者　③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間 2回開催、令和5年度は第1回-9月、第2回-3月に開催予定。

令和4年度開催日時　　第1回　令和4年9月1日（木）　15:00～17:00　　第2回　令和 5年3月16日（木）15:00～17:00

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
臨地での実習、職業実践教育を通して、コミュニケーション能力や医療人としての資質の重要性を検討し、実習指導場面からのフィードバックや意見を参考に、学内での情意領域、技術領域にわたる教育や実習中のストレス対策などを検討していく。 また、「対人関係演習Ⅰ・Ⅱ」の授業により、職業実践場面での演習やチーム医療を学ぶ機会を増やし、グループ病院臨床実習指導者との会議、客観的臨床能力試験（OSCE)への実施、実習施設から得られた意見などを検討して、実習にとどまることなく教育課程全般へ反映させ、基礎分野および専門分野の科目、演習、実習と関連する科目の結びつきがある教育課程編成を図る。なお、新型コロナウイルスの件では感染症防止に関する教育の重要性が挙げられ、臨床での予防、対処などの内容を実習前の学習に明確に位置付ける。

（別途、以下の資料を提出）
＊　教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程　　＊　教育課程編成委員会等の規則　＊　教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由（推薦学科の専攻分野との関係等）※別紙様式3－1
＊　学校又は法人の組織図　　＊　教育課程編成委員会等の開催記録

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学校法人巨樹の会のリハ養成校専門学校は、医療・福祉業界と連携して臨床実践の場での演習や実習を積極的に進めて、求められる人材を育成、輩出してきた。なかでも、産学連携協定を結ぶグループ病院の協力のもと、初年次より段階的に臨床実習の機会を設けて、知識技術のみならず倫理・態度の育成に力を入れ、早期より医療人としての資質を高めていくことを基本方針としている。また、授業内容については、臨床の最先端の技術知識について意見交換し適宜改変を行い、臨床実習指導者を対象にした講習会や会議も開催して、教育課程編成を検討する上での参考としている。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

臨床実習は病院とのインターンシップを促進する連携および協力のもと、教育課程編成委員会意見の反映、臨床実習指導者会議の開催をはじめ、診療参加型実習の実践に向けた連携や連絡調整を行い実施する。なお、専任教員は定期的に実習病院を訪問して実習指導者との連携を図り、学生へは教育的サポートを行い、実習成績は病院の指導者による成績表をふまえ、提出物なども含め学院にて総合的な成績評価を行う。その他、実習・演習科目についての授業内容、学習の要点、成績評価等はシラバスにて確認、共有して連携を図る。なお、学内演習で対象者の理解、医療人としてのルールマナーを学び、最終学年次の臨床実習では、最前線の医療現場を経験し、職業実践に必要な知識技術及び自己研鑽できる姿勢の修得を目指す。また、コロナウイルス感染症対策下では、感染防止から実習受け入れの調整まで、密に連携して可能な限り臨地での実習を行えるように工夫している。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
対人関係演習Ⅰ	①医療専門職に対する社会的要請を学び、医療人としての守るべき倫理を理解する。 ②自己と他者、様々な人間関係の在り方を学ぶ。 ③人間関係における他者理解のためのコミュニケーション技法を経験し、自己課題を認識する。	株式会社ホスピタリティリソーセスジャパン 講師　石渡みどり
対人関係演習Ⅱ	実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。フィールドワークを通じてコミュニケーションスキルの実践を行い、自己課題を認識する。対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる。	株式会社シダー　計15施設
生活機能演習	施設において対象者及び職員への情報収集を行い、対象者の生活場面の観察を行い、トップダウン評価及び治療を学習する。	実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となる
地域理学療法学演習	地域作業療法の理念、目的、概要について学び、在宅作業療法、就学支援、就労支援等の地域で暮らすための作業療法支援の在り方を理解する	株式会社シダー　関東本部
臨床実習Ⅰ～Ⅳ	各疾患の評価及び治療プログラム立案及び治療までの一連の流れを経験し、作業療法士の思考過程を学習する。	八千代リハビリテーション病院、千葉みなとリハビリテーション病院、松戸リハビリテーション病院、原宿リハビリテーション病院、五反田リハビリテーション病院など、計18病院

（別途、以下の資料を提出）
＊　企業等との連携に関する協定書等や講師契約書（本人の同意書及び企業等の承諾書）等

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

専攻分野の実務研修、学生への教授力や指導力向上に関わる研修に、参加や研究発表などによる積極的な取り組みを奨励して、医療専門職として社会貢献できる人材育成に役立てることを目指す。臨床実習病院との連携による専任教員の臨床研修、学術大会をはじめ、理学療法士・作業療法士の職能団体等が実施する研修も活用して、専攻分野の実務に関する研修の機会とする。また、指導力修得・向上を図るために、専攻分野における教員養成講習の受講を原則とし、教育機関団体等が実施する研修への参加、外部教育機関や職能団体から講師を招いて行う教育研修も行う。感染症防止により研修の中止やweb開催への変更で研修機会が減少する中では、可能な限り研修機会の確保を図っていく。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

1）臨床研修

臨床との乖離を防ぎ、最新の知識、技術、知見を備えて養成教育にあたるため、専任教員の臨床研修を企業連携科目の臨床実習の受け入れ病院で、約6ヵ月の期間、概ね2週に1回の頻度で行っている。令和4年度はコロナ感染防止のために一部の病院では休止期間やオンラインでの研修を行った。

ⅰ）令和4年4月25日(月)～6月17日(金)　ⅱ）令和4年7月11日(月)～9月2日(金)に、理学療法学科専任教員のうち13名が研修を実施。

連携する企業：八千代リハビリテーション病院、松戸リハビリテーション病院、千葉みなとリハビリテーション病院、原宿リハビリテーション病院、新久喜総合病院、東京品川病院
蒲田リハビリテーション病院、五反田リハビリテーション病院、赤羽リハビリテーション病院、小金井リハビリテーション病院、江東リハビリテーション病院、新上三川病院
みどり野リハビリテーション病院、所沢明生病院、明生リハビリテーション病院、狭山中央病院、宇都宮リハビリテーション病院、第2宇都宮リハビリテーション病院

2）連携企業グループ学術大会

年2回開催予定の連携企業（臨床実習病院）グループ合同学術大会だが、令和4年度は対面ではなくzoom視聴により参加。企業連携科目は臨床実習。

3）職能団体等実施の学会、研修会への参加

リハビリテーション職種の団体、専任教員が所属する学会などの学術大会や研修会に参加。専攻分野の知見を高め、授業内容の充実を図る。

第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会　令和4年6/11(土)-12(日)　内容：共創する心臓リハビリテーション　主催：日本心臓リハビリテーション学会　会場：オンライン

教員研修会（Web開催）　令和5年3/19(日)　内容：合理的配慮が必要な学生への支援　主催：全国リハビリテーション学校協会　会場：オンライン　参加1名

第11回日本理学療法教育学会学術大会 令和4年11/5(土)-6(日) 内容：理学療法教育の活性化～ハード・ソフト・ハートの実践～　主催：日本理学療法教育学会　会場：オンライン　参加1名

第28回千葉県理学療法学術大会　令和5年年3/5(日)　内容：サスティナブルな理学療法士の価値の創造　会場：オンライン　参加者1名

令和4年度日本理学療法教育会　学術研修会　令和5年2/28（火）内容：養成教育からリタイヤまでをキャリアと捉えてキャリア形成　主催：日本理学療法教育学会　会場：オンライン　参加1名

臨床実習指導者講習会　令和4年5/14(土)-15(日)　令和4年10/9(日)-10(月)　内容：臨床実習指導　主催：日本理学療法士協会・千葉県理学療法士会　会場：オンライン開催

理学療法学科教員を3名派遣

②指導力の修得・向上のための研修等

学校法人　ICT教育研修　令和4年 8/22(月)　内容：ICT教育について　主催：学校法人巨樹の会　会場：オンライン　参加 8名

学校法人 中央教育研修 令和4年 8/23（火）　内容：発達障がい傾向を抱える学生支援について　主催：学校法人巨樹の会　会場：オンライン　参加 8名

学校法人 中央教育研修 令和4年 8/26（金）　内容：これからの授業方法の工夫について（遠隔授業含む）　主催：学校法人巨樹の会　会場：オンライン　参加 8名

学校法人　初任者研修　令和4年5/20（金）　内容：①学校教育とは、教員としての心構え　②組織・理念について、カリュキュラムについて　主催：学校法人巨樹の会　参加2名

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

1）臨床研修. . . 企業連携科目の臨床実習の受け入れ病院にて、およそ2週に1回の頻度で、令和5年4月～9月の約6か月間、専任教員の臨床研修を実施する。

2）連携企業グループ学術大会. . . 令和5年度の前期（9/16）と後期、年2回の開催予定の学術研修会に専任教員が参画、出席する。

3）職能団体等実施の学会、研修会への参加. . . 専攻分野、担当授業科目等に応じ、職能団体の学会、研修・講習等の受講をオンラインを含めて進める。

②指導力の修得・向上のための研修等

1）理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会、もしくは理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会の受講. . . 未受講者の受講を検討。

2）全国リハビリテーション学校協会　第36回教育研究大会・教員研修会（8/25-26）. . . 理学療法学科の各専攻分野に専任教員が参加予定。

3）外部団体が開催する教育研修等の受講. . . 専任教員が受講を希望する研修に参加。

4）学校法人巨樹の会リハビリ専任教員研修、その他の教育研修（理学療法学科・作業療法学科共同開催）

学校法人　キャリア教育研修　令和5年年9月予定 内容：保護者と良好な関係を築きクレームを未然に防止する 主催：法人キャリア教育委員会　会場：小倉リハ学院　参加予定4名

学校法人　キャリア教育研修　令和5年6/30　内容：①教員としての心構え　②組織・理念・カリュキュラムについて　主催：法人キャリア教育委員会　会場：小倉リハ学院　参加予定 4名

学校法人　キャリア教育研修　令和5年7/12（木）　内容：学生の就職活動支援の指導について　主催：法人キャリア教育委員会　会場：八千代リハ学院　参加予定 7名

学校法人　カリキュラム教育研修　令和5年8月・2024年3月の2回を予定　内容：学生教育のスキル向上について　主催：法人カリキュラム教育委員会　会場：オンライン　参加予定 8名

学校法人　ICT教育研修　令和5年8月予定　内容：学生への教育スキル向上、効率化を目的　主催：法人ICT委員会　会場：オンライン　参加予定8名

学校法人　国家試験対策中央研修　日時未定　内容：1・2年生における国試支援の取組について学ぶ　主催：法人国家試験対策委員会　会場：未定　参加予定8名

（別途、以下の資料を提出）

＊　研修等に係る諸規程

＊　研修等の実績（推薦年度の前年度における実績）

＊　研修等の計画（推薦年度における計画）

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価を通じ、教育活動及び学校運営を点検し、継続的に改善することで、社会の変化に対応できる学校組織を目指すとともに、情報公開により学校の透明性向上を図る。また、自己評価・学校関係者評価を行うことで、全教職員が学校の状況及び目標・方向性を共有し、教育活動及び学校運営の改善を円滑に推進する。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	①教育理念・目的・人材育成像の明確化　②学生・保護者・学校関係者への周知　③医療・福祉のニーズとの整合性
（2）学校運営	①事業計画の策定　②運営組織・意思疎通機能の明確化　③情報システム化による業務の効率化
（3）教育活動	①教育理念に沿った教育課程編成・実施方針の策定　②実践教育の視点に立ったカリキュラム教授内容の工夫 ③医療・福祉実践教育の体系化　④授業評価実施体制　⑤教育力向上のための研修の実施
（4）学修成果	①就職率向上への努力　②退学率・留年率低減の努力　③国家試験合格率への努力④卒業生の状況を教育活動に反映
（5）学生支援	①学生相談及就職相談に関する体制整備　②学生生活指導及び安全管理に関する体制整備③高校や保護者と連携した指導の取組
（6）教育環境	①教材及び教育環境改善の取組　②臨床実習における環境改善の取組　③防災に関する体制整備
（7）学生の受入れ募集	①高等学校等への適切な情報提供　②資格取得・就職状況等の適切な情報提供
（8）財務	①中長期的な学校の財務基盤の安定　②予算・収支計画の妥当性　③会計監査の適切な実施
（9）法令等の遵守	①法令・設置基準等の順守と適正な運営　②個人情報保護対策
（10）社会貢献・地域貢献	①学校施設を活用した社会貢献・地域貢献　②学生ボランティア活動
（11）国際交流	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価を通じ、教育活動及び学校運営を点検し、継続的に改善することで、社会の変化に対応できる学校組織を目指すとともに、検討結果を活用し、2023年度重点目標・計画を作成して、質の高い教育を提供できる体制整備を行う。学校のHPで情報公開うことにより学校の透明性向上を図る。また、自己評価・学校関係者評価を行うことで、全教職員が学校の状況及び目標・方向性を共有し、教育活動及び学校運営の改善を円滑に推進する。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
斎藤　剛史	新浦安 内科・脳神経内科クリニック	令和4年4月1日　～　令和6年3月31日	企業等評価委員
田中　朋美	医療機関　作業療法士	令和4年4月1日　～　令和6年3月31日	企業等評価委員
小林　誠	株式会社waku work	令和4年4月1日　～　令和6年3月31日	卒業生評価委員
市角　雄幸	習志野市市議会議員	令和4年4月1日　～　令和6年3月31日	地域評価委員
菊島　翔	千葉県立八千代東高等学校	令和4年4月1日　～　令和6年3月31日	高等学校評価委員
奥田　裕	帝京科学大学　東京理学療法学科	令和4年4月1日　～　令和6年3月31日	有識者評価委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。　（例）企業等委員、PTA、卒業生、校長等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ　令和5年7月

URL:http://www.yachiyo-reha.jp/

（別途、以下の資料を提出）

＊　学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書（推薦学科の専攻分野との関係等）※別紙様式３－２

＊　自己評価結果公開資料　　＊　学校関係者評価結果公開資料（自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書）

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」に基づいて、企業等関係者の理解、学校教育の質の保証・向上を図るために、ホームページにて学校の基本的情報、学則、シラバス、実績ほか、情報公開を行う。学校関係者評価に際しては自己評価結果ほか、学生便覧、学校パンフレット等の広報資料、カリキュラム等教育関連資料、教育実績等を提供し、自己評価報告書および学校関係者評価報告書にて公開する。また、連携企業や関連団体に対してホームページその他の媒体でも情報公開を行い、学校関係者への積極的な情報提供、説明のもと、学校運営の透明性を図る。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	①校長名　②所在地　③連絡先　④学校の沿革　⑤学校の特色（教育活動・カリキュラム等）　⑥教育目標　⑦運営方針　⑧教育指導計画 ⑨学校行事計画
（2）各学科等の教育	①入学者選考の方針及び方法　②定員数　③教育課程　④進級及び卒業要件　⑤資格取得　⑥卒業者数及び卒後の進路状況
（3）教職員	①教職員数　②教職員の組織及び専門性
（4）キャリア・実践的職業教育	①キャリア教育への取組状況　②企業等との授業等の取組状況　③就職支援の取組状況
（5）様々な教育活動・教育環境	①学校行事への取組状況　②課外活動等の状況
（6）学生の生活支援	①生活支援の取組状況
（7）学生納付金・修学支援	①学生募集及び納付金の取り扱い　②就学支援の内容
（8）学校の財務	①資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表
（9）学校評価	①自己点検及び自己評価報告書　②学校関係者評価による改善方策
（10）国際連携の状況	
（11）その他	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法

URL:http://www.yachiyo-reha.jp/

（別途、以下の資料を提出）

＊　情報提供している資料

事務担当責任者	フリガナ	タカノ ヨウコ	所属部署	事務部
	氏名	高野　陽子	役職名	事務長
	所在地	〒276-0031　千葉県八千代市八千代台北11丁目1番30号		
	TEL	047-481-7320	FAX	047-481-7321
	E-mail	yokotaka@yachiyo-reha.jp		

授業科目等の概要

（医療専門課程理学療法学科昼間コース）令和４年度　　八千代リハビリテーション学院

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			心理学	①対人援助職に必要な人間の行動科学の基本原則を学び、対象者理解の基礎を身につける。 ②リハビリテーション治療過程に関わる学習理論、動機づけを理解する。	1年前期	30	2	○			○			○	
○			統計学	基礎的な統計処理を学習し、理学療法及び作業療法に必要な臨床研究の基礎を身につける。	2年後期	30	2	○			○			○	
○			情報処理	コンピューターの基本的操作を学び、文章作成及び表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを用いた実習を通じ、研究・レポート作成に必要なデータ処理、統計分析の手法を学習しリハビリテーション研究の基礎を身につける。	2年後期	30	2	○			○			○	
○			物理学	①人体の運動と物理法則の関係を理解し、科学的な見方を身につける。 ②リハビリテーション臨床場面における科学的思考の基礎を身につける。	1年前期	30	2	○			○			○	
○			基礎教養	・文章を書く上で基本となる語彙と文法を理解する。 ・文章の基本となる文章構成について理解し、説得力のある論理的な文章表現力を身につける。 ・文章表現だけではなく、日常会話でも必要となる敬語表現を身につける。	1年前期	30	2	○			○			○	
○			対人関係演習Ⅰ	①医療専門職に対する社会的要請を学び、医療人としての守るべき倫理を理解する。 ②自己と他者、様々な人間関係の在り方を学ぶ。 ③人間関係における他者理解のためのコミュニケーション技法を経験し、自己課題を認識する。	1年前期	30	2		○		○			○	○
○			対人関係演習Ⅱ	実際に社会での直接的体験を通して、優れた社会人となるための自己認識、自己啓発の機会とすることを目的とする。フィールドワークを通じてコミュニケーションスキルの実践を行い、自己課題を認識する。 対象者を尊重し,共感的態度をもって,より良い・善い人間関係を構築できる。	1年後期	30	2		○	△	○	○	○	○	○
○			解剖学Ⅰ	正常な人体の動物機能に関わる骨・筋および末梢神経系の形態と構造を理解する。	1年前期	30	2	○			○			○	
○			解剖学Ⅱ	①正常な人体の動物的機能特に神経系の形態・構造を理解する。 ②正常な人体における植物系機能（循環・呼吸・代謝・成長など）ならびに意識的感覚や精神機能に関わる形態・構造を理解する。	1年後期	30	2	○			○			○	
○			生理学Ⅰ	生理学の基礎である細胞生理について理解したうえで、ヒトの生理学的（植物）機能を理解する。	1年前期	30	2	○			○			○	
○			生理学Ⅱ	人の動物性機能を理解する。	1年後期	30	2	○			○			○	
○			運動学Ⅰ	身体の構造（骨・関節・靭帯・筋・神経）と身体の姿勢保持・運動との関係を理解する。 上肢の骨・関節・靭帯・筋の構造と実際の運動との関わりを理解する。 脊柱・胸郭の構造と運動との関わり合いを理解する。	1年前期	60	4	○			○		○		
○			運動学Ⅱ	靭帯の走行と運動制限を理解する 関節運動(転がり・滑り),終末強制回旋運動について理解する 膝関節の動筋について理解する	1年後期	30	2	○			○		○		
○			運動学演習Ⅰ	人体の関節構造と運動の力源である筋肉について、知識を深めて人体の動きを3次元で考えられる基礎を作る。また、神経の走行・筋の支配神経について理解する。	1年前期	30	2		○		○		○		
○			運動学演習Ⅱ	人体の関節構造と運動の力源である筋肉について、知識を深めて人体の動きを3次元で考えられる基礎を作る。また、神経の走行・筋の支配神経について理解する。	1年後期	30	2		○		○		○		
○			人間発達学	①身体、運動、認知、心理、社会性など各領域の正常な発達過程を理解する。 ②人間を生物学的存在としてでなく社会的存在としてとらえ、各段階の発達課題を理解する。 ③人間発達学を通じて幅広く豊かな人間観を身につける。	1年後期	30	2	○			○			○	
○			リハビリテーション基礎医学Ⅰ	理学療法士・作業療法士にとって、運動・活動は治療に必要不可欠である。本講義では、ヒトが運動・活動するために必要な栄養学を含めた諸要素の基礎、それらへの加齢・不活動の影響及び生活習慣病について学習し、運動の必要性を理解しつつ、実践するために必要な評価・リスク管理及び緊急時の対処方法について理解することを目標とする。	1年前期	30	2	○			○		○		
○			リハビリテーション基礎医学Ⅱ	画像及び薬物に関する知識は、理学療法士・作業療法士として患者の病態を把握し、治療プログラムを作成する上で重要な基礎となる。また、医師など他の医療スタッフと共通の認識を持ち、コミュニケーションを図る上でも必要な知識である。そのため、画像及び薬物についての基礎を理解することを目標とする。	1年後期	30	2	○			○		○		

○			医学概論	医療倫理、健康と病気の概念、疾病の分類を学び、病気の診断と治療の概要を理解する。	1年前期	30	2	○			○		○		
○			病理学概論	①疾患の原因および形態的変化などの基本概念や用語、基本的視点と関連技術に関する知識を捉える ②医療・医学における病理学の役割、意味、位置づけを理解する	2年前期	30	2	○			○			○	
○			整形外科学	リハビリテーション対象疾患について疫学及び予後、病因と症状・検査及び治療を理解する。	2年前期	30	2	○			○		○		
○			内科学	内科疾患について疫学及び予後、病因と症状（疾病の成り立ち）、検査および代表的な治療を理解する。	2年前期	30	2	○			○			○	
○			神経内科学	各疾患の疫学及び予後、病因と症状、検査及び治療を理解する。	2年前期	30	2	○			○			○	
○			臨床心理学	人間行動の基礎理論を学び、正常及び異常心理の評価と行動療法等の心理療法を理解する。	1年後期	30	2	○			○			○	
○			精神医学	①統合失調症の発生機序、病態、病型を理解する。 ②症状・障害を理解する。 ③治療の方針、経過、予後、生活への影響について学ぶ。	1年後期	30	2	○			○			○	
○			リハビリテーション と 理学療法Ⅰ	理学療法士という専門職の役割を認識し、「あらゆる人々が健康で自立した生活の実現に貢献する」ことを使命とするプロフェッショナリズムとしての行動素地を身に付けることが出来る。その上で自らの目標・課題が明確となり今後の指標とすることが出来る。	1年前期	30	2	○			○		○		
○			リハビリテーション と 理学療法Ⅱ	私たちが働く領域は制度に基づく。その社会保障制度を理解したうえで、チームにおけるリハビリテーション職種の役割を認識する。また、対象者理解に必要な視点を身に付ける。	1年前期	30	2	○			○		○		
○			基礎理学療法学Ⅰ	理学療法の基礎を築くために基本動作と生体反応を主軸とした理論について体験を通して学ぶ。 あわせて、提出期限の厳守、積極性、協調性等の職業適性を身につける。	1年前期	30	1	○		△	○		○		
○			基礎理学療法学Ⅱ	理学療法の基礎を築くために予防医学と現代医療を主軸とした理論について体験を通して学ぶ。 あわせて、提出期限の厳守、積極性、協調性等の職業適性を身につける。	1年後期	30	1	○		△	○		○		
○			生活機能演習	①ICFにおける「生活機能」を理解する。 ②ICF視点で模擬症例を通して生活機能障害の構造を理解する。 ③模擬症例を通して生活機能障害に対する課題解決能力を身につける。 ④模擬症例を通して生活期（在宅）の生活機能障害と、社会資源の利用を含めた多職種連携を理解する。	2年後期	30	1		○	△	○	○	○	○	○
○			臨床運動学演習Ⅰ	理学療法を科学的に実施するために、正常の身体運動の分析と方法を理解する。測定機器を用いて、客観的データに基づいた身体運動における関節・筋活動の理解および運動に対する生理的反応を確認し理解を深める。また、得られた測定結果に対して考察することが出来るようになることを目標とする。	1年後期	30	2		○		○		○		
○			臨床運動学演習Ⅱ	異常な活動・動作を分析し、問題点の理解を客観的に出来るようになることを目標とする。また、得られた測定結果に対して考察することが出来るようになることを目標とする。	2年後期	30	2		○		○		○		
○			理学療法管理学	理学療法の職場管理学において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について学ぶ。	3年前期	30	2	○			○		○		
○			基礎評価学演習Ⅰ	理学療法を実施するための評価、統合と解釈、問題点の抽出、理学療法プログラム作成などの一連の思考過程を学ぶ。特に基本となる医療面接、バイタルサイン、関節可動域測定などに関して理解し実施および記録できることを目標とする。	1年前期	60	2		○	△	○		○		
○			基礎評価学演習Ⅱ	評価学演習Ⅰにて学習した内容を踏まえ、理学療法において必要な評価項目を理解し、実施および記録できることを目標とする。	1年後期	60	2		○	△	○		○		
○			基礎評価学演習Ⅲ	基礎評価学演習Ⅰ、基礎評価学演習Ⅱにて学習した内容を踏まえ、理学療法が対象となる各疾患に特異的な評価項目を理解し、実施および記録できることを目標とする。	2年前期	60	2		○	△	○		○		
○			臨床評価学演習Ⅰ	①対象者に検査の説明を行い安全に検査を施行できる ②対象者の状況に合わせた検査の方法を考えたうえで、練習に取り組むことができる ③検査器具・記録用紙などの準備・片付け、管理を行える ④基礎評価学演習で学修した検査測定について、健常者に施行できるレベルの技術を習得する	1年前期	30	1		○	△	○		○		
○			臨床評価学演習Ⅱ	①対象者に検査の説明を行い安全に検査を施行できる ②対象者の状況に合わせた検査の方法を考えたうえで、練習に取り組むことができる ③検査器具・記録用紙などの準備・片付け、管理を行える ④基礎評価学演習で学修した検査測定について、健常者に施行できるレベルの技術を習得する	1年後期	30	1		○	△	○		○		

○			運動療法学演習	運動療法における運動療法学の歴史および位置づけを認識し、基本的運動療法について、方法、適応、禁忌およびリスク管理を理解し、安全で効果的に実施できることを目標とする。	1年後期	60	2		○		○		○		
○			物理療法学	種々の物理療法の原理、目的、生理的作用、適応、禁忌および実施の手順について理解する。 症状に応じた物理療法を選択できる。	1年後期	30	1	○			○		○		
○			日常生活活動学演習Ⅰ	日常生活の基本として遂行される動作を取り上げ、それらの動作遂行に必要な条件を解説するとともに、ADL障害に対して動作の支援、援助方法を理解し実践する。 self careの概念、位置づけを学び適切なADL指導を理解する。 障害に応じた移動補助具を選択するとともにそれらの活用および指導技術を習得する。	2年前期	30	1		○	△	○		○		
○			日常生活活動学演習Ⅱ	障害に応じた移動補助具を選択するとともにそれらの活用および指導技術を習得する。 self careの概念、位置づけを学び適切なADL指導を理解する。 ADL評価の意義および検査方法を理解する	2年後期	30	1		○	△	○		○		
○			義肢学	義肢学では、切断患者のリハビリテーションの流れを理解するために、切断の原因、義肢の種類、義肢の適合および判定、そして装着訓練・管理方法を学ぶ。	2年前期	30	1	○			○		○		
○			装具学	装具学では、装具の種類、適応、そして適合を学び、更に対象者の運動能力や機能を理解した上で、必要な装具を選択できることを目標とする。	2年後期	30	1	○			○		○		
○			中枢神経疾患の理学療法学Ⅰ	脳血管障害の発生機序と障害像を把握した上で、片麻痺に対する理学療法を理解する。	2年前期	60	2	○		△	○		○		

○			中枢神経疾患の理学療法学Ⅱ	中枢神経系障害の理学療法学Ⅰの学習内容を踏まえ、高次脳機能障害そして、頭部外傷、神経難病の理学療法を理解する。	2年後期	60	2	○		△	○		○		
○			運動器疾患の理学療法学Ⅰ	運動器障害を生じる主な疾患の病態・症状・疫学・予後・一般的治療および理学療法への展開について学ぶ。代表的な骨関節疾患を理解するとともに、それに応じた理学療法を理解する。	2年前期	60	2	○		△	○		○		
○			運動器疾患の理学療法学Ⅱ	骨関節障害を生じる主な疾患の病態・症状・疫学・予後・一般的治療および理学療法への展開について学ぶ。代表的な骨関節疾患を理解するとともに、それに応じた理学療法を理解する。	2年後期	60	2	○		△	○		○		
○			内部障害系疾患の理学療法学Ⅰ	代謝疾患および循環器疾患の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。	2年前期	60	2	○		△	○		○		
○			内部障害系疾患の理学療法学Ⅱ	呼吸器疾患および悪性腫瘍の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。	2年後期	60	2	○		△	○		○		
○			小児疾患の理学療法学	小児期に発症する疾患について、疾患の知識及び派生する障害像を理解するとともに、それに対するリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する	2年後期	30	1	○		△	○		○		
○			理学療法学技術演習Ⅰ	これまで学内で履修した知識と技術の統合を図り、臨床実習で必要となる全体像を把握する能力や臨床的意思決定能力などを育成するために、骨関節疾患を題材として、評価から治療プログラム作成までの一連の理学療法行為を段階的に学ぶ。	2年前期	60	2		○	△	○		○		
○			理学療法学技術演習Ⅱ	これまで学内で履修した知識と技術の統合を図り、臨床実習で必要となる全体像を把握する能力や臨床的意思決定能力などを育成するために、中枢神経疾患を題材として、評価から治療プログラム作成までの一連の理学療法行為を段階的に学ぶ。	2年後期	60	2		○	△	○		○		
○			理学療法学総合学習Ⅰ	臨床実習の経験を元に、評価学分野、中枢系分野、運動器系分野における専門基礎科目・専門科目の知識と思考過程の統合を図り、国家試験合格に必要な総合的学力をつけることを目標とする。	3年後期	60	2	○			○		○		
○			理学療法学総合学習Ⅱ	臨床実習の経験を元に、内部系分野、小児・発達系分野、心理・精神系分野における専門基礎科目・専門科目の知識と思考過程の統合を図り、国家試験合格に必要な総合的学力をつけることを目標とする。	3年後期	60	2	○			○		○		
○			理学療法学総合学習Ⅲ	臨床実習の経験を元に、国家試験出題範囲全ての専門基礎科目・専門科目の知識の統合と思考過程の整理を図り、国家試験合格に必要な総合的学力をつけることを目標とする。	3年後期	60	2	○			○		○		
○			生活環境学	障害や各福祉用具の特徴を理解した上で、生活環境の評価と住環境整備の流れを理解する。	2年後期	30	2	○			○		○		
○			地域理学療法学演習	１．地域リハビリテーションにおける社会制度を説明できる。 ２．地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割について説明できる。 ３．地域リハビリテーションに関わる他職種のサービスについてその概略を説明できる。	2年後期	30	2		○	△	○	○	○	○	○
○			臨床実習Ⅰ	①チーム医療における理学療法士・作業療法士の役割を理解する。 ②代表的な疾患の症状や現象を観察する。 ③代表的な疾患に対する評価や治療を観察する。	1年後期	45	1			○	○	○	○	○	○
○			臨床実習Ⅱ	①地域包括ケアシステムにおける実習施設の役割を理解し説明できる。 ②実習施設における理学療法士・作業療法士および他専門職の役割を理解する。 ③学校および実習施設の規則に従って自覚を持った行動がとれる。 ④実習施設における理学療法・作業療法業務の一部経験する。	2年後期	45	1				○	○	○	○	○	○
○			臨床実習Ⅲ	①対象者を尊重し、共感的、傾聴的態度をもって接することができる ②職場における理学療法士・作業療法士の役割と責任について理解する ③理学療法・作業療法における臨床評価の流れを経験し、理解する ④指導者の監視下において、学生により実施されるべき項目の検査・測定およびリスク管理や観察を実践することができる	3年前期	360	8				○	○	○	○	○	○
○			臨床実習Ⅳ	臨床実習指導・監督の下で、典型的な障害特性を呈する対象者に対して、 ①臨床教育者の理学療法・作業療法の臨床思考過程を説明し、理学療法・作業療法の計画立案ができる ②臨床教育者に許可された臨床技能を実施できる	3年前期	450	10				○	○	○	○	○	○
合計				62科目	3120単位時間（127単位）											

卒業要件及び履修方法	授業期間等
卒業要件：すべての授業科目の単位修得を認定された者	１学年の学期区分　2期
履修方法：講義・演習・実習により履修する	１学期の授業期間　17週

（留意事項）
１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。